

令和 5 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立有田中央高等学校清水分校 校長名：村崎 隆志

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

【目指す学校像】
 ・地域の教育資源を最大限に活用した、分校ならではの特色ある学校。

【育てたい生徒像】
 ・学んだことや体験したことを活かして、自ら考え、行動ができる。
 ・基礎学力・コミュニケーション能力を身につけ、自己肯定感を高め、自分に自信が持てる。
 ・地域の産業や自然環境・社会環境についての理解を深め、社会から信頼され社会に貢献できる。
 ・他者と協働して課題解決に取り組み、生涯をとらして学び続ける姿勢を身につける。
 ・自己と他者を尊重し、様々な在り方を認めることができる。

学校評価の公表方法

年度末に、生徒・保護者等の学校評価結果を関係者に知らせるとともに、学校のホームページに掲載する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。	(80%以上)
	B	概ね達成している。	(60%以上)
	C	あまり十分でない。	(40%以上)
	D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組			評価（3月31日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	生徒の実態に即したわかる授業を実践し、個々の学力を確かなものにする。	B	ICTの活用を推進するなど、授業改善に取り組む。	すべての教員がICTを活用した授業を取り入れているか。	B	Teamsの校内研修を2回実施した。生徒用タブレットを活用させ、授業改善に取り組んだ。	ICTの活用については、今後も校内研修を実施する。家庭学習や基礎学力の定着には、生徒の興味関心を喚起する教材づくり等、粘り強く取り組む必要がある。
			基礎学力の定着に向け、学び直し・漢字学習を充実させる。	学び直しの時間を確保しているか。生徒が自主的に漢字学習の成果を確認しているか。	B	基礎学力の定着を図ったが、生徒の取り組みに個人差が出た。	
			家庭学習の定着につながる取組を充実させる。	生徒が主体的に学習できる教材の作成にとりこんでいるか。	B	家庭学習の定着までいかないが、各教科で取り組みの工夫が見られた。	
2	基本的生活習慣の確立及び教育相談の充実。	B	挨拶の励行、みだしなみ指導の徹底等、規範意識を向上させる。	校門指導、授業中のマナー指導を徹底しているか。	B	挨拶・服装について生徒の規範意識は高い。必要に応じて今後も指導を行う。	授業マナーや身だしなみについては生徒に定着している。生徒の情報共有については、今後も職員会議や日常の会話の中で行う。また、支援を要する生徒については、ケース会議等で具体策を検討する。
			生徒の情報について教職員間で共通理解を図る。	職員会議で生徒情報を共有する時間をとっているか。支援委員会を定期的に行っているか。	A	職員会議毎で生徒情報を共有する時間が取れた。また、定期的に支援委員会や現職教育を行った。	
			SSWや地域の関係諸機関との連携を充実させる。	必要に応じてケース会議等が開かれているか。	B	支援委員会を通してケース会議を行った。SSWを通して地域の関係機関と連絡が取れている。	
3	キャリア教育を充実し進路意識を高めるため、個に応じた指導を徹底する。	B	三者面談等を通じて生徒・保護者との意思疎通を図る。	進路決定について、三者面談等を行い、生徒・保護者の希望が充分反映されたか。	B	オープンキャンパス等のイベントを紹介するなど、進学先を選定する機会を増やした。	面談等については、必要に応じて担任と連携を取り、企画・実施する。オープンキャンパス等の情報提供や、企業説明会、企業見学の機会を通して、生徒の進路意識を喚起していく。
			就職・進学に向け、面接指導や補習を充実させる。	生徒全員の進路希望が叶えられているか。	A	生徒、保護者両者が希望する専門学校への進学ができた。	
			インターンシップや職場見学を積極的に実施する。	企業説明会や企業見学が計画的に実施されているか。	B	地元企業・事業所への訪問を企画・実施し、就業意識を喚起することができた。	
4	学校開放や地元学校との交流に努め、地域に根ざした学校づくりを推進する。	B	地域の人的・物的資源を教育活動に積極的に取り入れる。	地域産業、福祉施設等と連携した体験的な授業が行われているか。	B	総合的な探究の時間や学校設定科目等で実施できた。	今年度は、コロナ禍の影響もあり、一般参加行事は取り入れなかった。来年度は、文化祭を一般参加できるよう工夫する。小学校・中学校との交流についても、内容を充実させ計画的に実施する。情報発信については、動画の内容をさらに充実させる。
			地域住民との交流の機会を設け、高校生としてできる地域貢献を推進する。	地域のイベントへの参加し、合同行事を開催しているか。	B	未来の語り場に学校運営協議会委員が参加し、生徒と意見交換できた。	
			地域小中学校との連携を進め職員・生徒間の交流を推進する。	学期に1回以上の小中学校訪問や職員・生徒間の交流ができてきているか。	A	小中学校との交流は学校間の連携を深めると同時に随時意見交換しながら実施している。	
			情報発信の方法・内容を充実させる。	マンスリータイムズを地域で閲覧しているか。ホームページの内容を充実させているか。	B	今年度から、ホームページに授業や行事の動画をあげた。	

学校関係者評価（12月1日実施）

在校生・保護者・学校運営協議会委員を対象に、具体的な項目を挙げたアンケート形式の学校評価を実施した。その結果、概ね良好な評価を得た。

中学校との交流、地域学習、ボランティア活動などの地域との連携を積極的に続けてきた結果、ある一定の評価を頂くことができた。

学校運営協議会からは、地域学習・交流について、「少人数であるが、外部の方との交流が良い経験になっている」、「体験的な取組を通して、表現力などの成長が感じられる」ホームページ等の広報活動について、「第1回で検討した、動画の公開に迅速に対応できた」等の評価を得た。